

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2025年3月11日 No.95

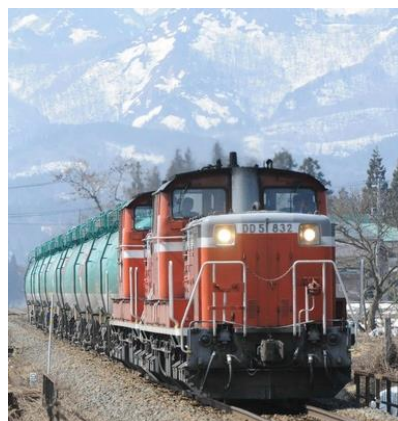
東日本大震災から14年 災害に備え、「命」を最優先に守ろう！

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原発事故から14年が経過しました。当時、大津波警報が発令され、複数の線区で走行中の列車に避難指示が出されました。大混乱の中、組合員はお客さまの命を最優先に考えて行動し、全列車で無事に生還することができました。これは、日頃から命を最優先にした職場議論がなされていたことによってそのような確かな判断・行動ができたと言えます。

今年、被災地である岩手県大船渡市では大規模な山火事が発生しました。予期せぬ事態は、いつ起きるか分からないことを考える必要があります。

「抵抗とヒューマニズム」の精神で助け合う！

東北地方は道路が寸断され、燃料不足となりましたが、たしろ参議院議員（JR東労組組織内議員、当時）を中心とした働き掛けによって、被災程度が軽い磐越西線を迂回ルートとして貨物列車で燃料を届ける「燃料列車」を走らせ、被災者の命を繋ぎました。また、JR東労組では被災地での復興ボランティアを取り組み、困った時こそ助け合う精神を学びました。【写真】政治の力とJR総連組合員の力によって実現した燃料列車▶



「経験」と「思いやり」重視の職場をつくるため、チェック機能を果たそう！

いま職場では、短期間での異動・担務変更・兼務によって不慣れなまま仕事をして不安全になったり、自分の仕事に手一杯で周囲への配慮に欠ける状態が数多く見受けられます。しかし、災害時において安全綱領にある「疑わしいときは、あわてず、自ら考えて」「職責をこえて一致協力」していくには、「経験」に裏打ちされた確かな判断力と、お客さまや仲間への気配りができる「思いやり」のある職場が必要です。災害に強いJRをつくるため、職場からチェック機能を果たしていきましょう！

JR東日本を「安全」や「命」を大切にする企業風土へと是正するために、JR東労組へ結集しよう！